

講義コード	519400601	
講義名	言葉（指導法） AB	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科（短大）	
講義開講時期	前期	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	3時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	西田 直樹	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし

授業の概要

【授業の概要】

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を構想する力を身に付けます。

【授業の方法】

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書と配布印刷物を活用します。

②授業形態

4人程度の班に分かれ、班ごとに教科書の指定部分を担当し、輪読・発表（プレゼンテーション）をしてもらいます。

③アクティブラーニング

本教科では、「理解し・要約し・発表する」ことを通して、幼児期の言葉の獲得について主体的に考えてもらいます。

したがって、単に講義を聞いていればよいのではなく、自ら積極的に学び、参加する姿勢が求められます。基本的な毎回の流れとしては、「テキストの内容理解（予習と小テストによる復習）」→「学生による発表」→「まとめ」という順番で進めていきます。

④課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては小テストや提出物を4段階で評価して返却します。必要に応じて補助学習の追加を指示します。

授業の到達目標及びテーマ

【1 到達目標とテーマ】

（1）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を論じることができる。

1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を論じることができる。

2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえて、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を説明できる

- 3) 幼稚園教育における評価の考え方を説明できる。
- 4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを説明できる。

(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を説明できる。

- 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を説明できる。
- 2) 領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に応用できる。
- 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・実施できる。
- 4) 模擬保育とそのふり返りを通して、保育を改善する視点を身に付け実施できる。
- 5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことが実施できる。

【2 学習成果評価マトリックスとの関連】

到達目標については、学習成果における①保育者観 ②知識・技能 ③実践力と実務能力 ④人間性と協調性が該当します。

特に①②③を重視します。

【3 ディプロマポリシーとの関連】

本教科は、幼児教育科のディプロマポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」を達成するための科目です。

授業計画表

回	担当教員	項目
第1回		第1回 保育における「言葉」とは？ －幼稚園教育の基本領域「言葉」のねらい及び内容
第2回		第2回 子どもの言葉の発達過程（1） －言葉を生む基盤と話言葉の発達の道筋
第3回		第3回 子どもの言葉の発達過程（2） －書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉
第4回		第4回 言葉を育む環境構成と援助（2） －話したい、聞きたい意欲を生む援助
第5回		第5回 言葉を育む環境構成と援助（2） －生活に必要な言葉の習慣を支える援助
第6回		第6回 言葉を育む環境構成と援助（3） －言葉の擦れ違いやうまく伝わらないもどかしさへの援助
第7回		第7回 言葉を豊かにする環境構成と援助（1） －言葉による伝え合いを育む援助
第8回		第8回 言葉を豊かにする環境構成と援助（2） －文字などで伝える楽しさを生み出す援助
第9回		第9回 子どもの言葉を豊かにする教材・児童文化財 －絵本・物語・紙芝居などの実際と保育の中の生かし方
第10回		第10回 言葉に対する感覚を豊かにする実践・言葉あそび －言葉あそび（しりとり・言葉あつめなど）の実際と保育の中での生かし方
第11回		第11回 子どもの言葉を育む保育の構想 －領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案の作成
第12回		第12回 子どもの言葉を育む保育の構想 －領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案の作成

第13回		第13回 子どもの言葉を育む保育の実践 －保育実践もしくは模擬保育の振り返り
第14回		第14回 子どもの言葉を育む保育の評価と改善 －保育実践もしくは模擬保育の振り返り
第15回		第15回 まとめ：こどもの言葉を育み、豊かにする保育実践 －「言葉」をめぐる現代的な課題と特別な配慮が必要な幼児への指導を踏まえた「言葉」に関する保育実践
第16回	期末試験（筆記試験を行う）	

授業時間外の学修

予習・復習については、各回授業の発表やワークシートの内容によって点検します。

各回の授業に臨むにあたり、授業計画に示した受魚う内容の予習・復習3～5時間程度行うこと。

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
教材や授業課題の理解	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる。	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる。	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる。	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポート等への助言・新たな資料提供等の支援を行っている。
調査する力（予習を含む）	自ら進んで予習範囲を超えて調べるとともに、それを他者に説明することができる。	定められた予習範囲について自分の力で調べることができている。	定められた予習範囲について調べてはいるが、その理解にはあいまいな点が多く、不十分な美便がある。	定められた予習範囲について調べられない。もしくは内容が不十分である。
レポート力（復習を含む）	与えられたテーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使ってレポート等を作成している。	与えられたテーマについて、授業で紹介した方法を使ってレポート等を作成している。	与えられたテーマにある程度沿って、授業で紹介した方法を使ってレポート等を作成している。	与えられたテーマに沿ったレポート等になっていないため、教員が添削等の支援をしている。

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験	60%	
小テスト等	10%	
成果発表	10%	
授業への貢献度	10%	
レポート	10%	
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の冒頭で解説、講評する	授業の冒頭で解説、講評する	授業の冒頭で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用	実験観察・実習	授業前レポート（予習）

教科書

『保育内容 言葉』 小田 豊 芦田 宏 編著 北大路書房
『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』 文部科学省 著 フレーベル館

参考書

『保育所保育指針〈平成29年告示〉』 厚生労働省 著 フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 著 フレーベル館

SDGsとの関連

4. 質の高い教育をみんなに 17. パートナリーシップで目標を達成しよう
--

特記事項等

①実務経験のある教員
該当しません。

②科目のナンバリング

SCO1104

③オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリット式授業を行う。

学生へのメッセージ

この授業で学ぶ「言葉」の知識は、9月の幼稚園実習や2月の保育所実習で、とても役立ちます。幼児とコミュニケーションをとるために大切な知識ですから、しっかりと学んで下さい。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 212研究室又は管理棟1階の企画広報室
月・火・水・木が出講日です。直接、研究室を訪ねて下さい。

電話番号

028-667-7111（代）

授業用E-mailnishida@sakushin-u.ac.jp**成績評価法**

- ①定期試験 60%
- ②小テスト等 10%
- ③成果発表 10%
- ④授業への貢献度 10%
- ⑤レポート 10%